



朝から家族で

海外研修でネパールを訪ねたときのことを紹介します。

ネパールの北部にはヒマラヤ山脈が連なり、世界最高峰のエベレスト山があります。そのヒマラヤ山脈に近いパトレケット村で、ホームステイさせていただきました。



はやおきくん
©やなせたかし

ホームステイ先のお宅は、車が通る道から20分ほど山道を上ったところにあつました。かなり急な山道でしたが、お年寄りから小さな子どもたちまで使用する生活道でした。そこで道案内をしてくれた子どもたちの歩く速さとバランスの良さには感心させられました。日常的に体力が鍛えられているのだと思います。子どもたちは家に帰った後、9時過ぎには就寝。10時過ぎには、家族みんなが就寝しました。



仲良く登校する子どもたち（ネパール）

須崎市教育研究所

040・0078

翌朝は、大人は4時半ごろから起きて、掃除や農作業をし、子どもたちも6時には起きて掃除を手伝っていました。毎日、早寝・早起きをして、朝から家族みんなで家の仕事をするのが当たり前に行われていることにも大変驚きました。

また、朝からいろいろと話しながら家族みんなで作業をしている姿は、すてきだなと感じました。

我が家でも1歳になった息子と早起きして、「朝から家族で」一緒に何かをやつていきたいなと考えています。

みなさんも「朝から家族で」いかがですか。

学校教育課

指導主事 前田 裕史

すさぎの文化財

土佐藩砲台跡

中町二丁目

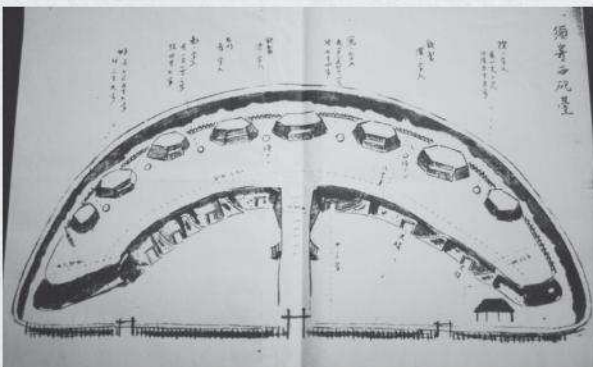
その五十三

幕末

のころ、異国船が頻繁に来航するようになり、土佐藩でも沿岸防備のため、藩命で須崎へ3カ所の砲台を築造することになり、文久3（1863）年7月10日着工しました。当時としては大工事であったため、郡内から出夫させましたが、特に須崎は一戸当たり3人役の出夫のほか、各

人応分の献金などを行いました。おかげで、1カ月半という短期間で完成しました。

砲台場は、明治維新の廃藩置県後に陸軍省の用地となつていましたが、明治41年内務省所管となり、次いで須崎町に払い下げられました。東の台場（砲門火薬庫各3）および中の台場（砲門火薬庫各4）は取り壊し、広さ51アール、長さ120mの西の台場（砲門火薬庫各7）が残され、大正3年西浜公園となりました。そして、昭和19年11月13日、国の文化財（史跡）に指定されました。



文久3（1863）年8月23日に完成した砲台場の古図【高知市民図書館蔵】



現在の土佐藩砲台跡